



○延岡商業高校 R6「金融経済教育研究校」の指定を受けました。

「金融経済教育」とは、**経済的に自立し、より良い生活を送るために必要なお金に関する知識や判断力（金融リテラシー）を身に付けるための教育**を指す。身に付けるべき金融リテラシーは、次の4分野に分かれている。

- ① 家計管理、②生活設計、③金融知識及び金融商品の利用選択、④外部の知見の適切な活用などである。

本校の商業教育の強みを生かしながら、1年生の「ビジネス基礎」で「株式ゲーム」等を教材として取り入れ、リアルな資産運用を体験したあと、2年生の家庭科の「家庭総合」で将来のライフプランを主体的に計画できる力を育成させる教科横断的な学びの実践を目指している。

日本の金融教育は他国に比べ遅れを取っていると言われている。その理由として戦後日本は、復興にあたって巨額の資金が必要となったため、国民に貯蓄を奨励した。その後高度経済成長期に移行し、日本の家計は欧米並みの豊かさを求め自動車、家電等の消費を増やし、それがさらなる経済成長を生み出した。このことが、さらに貯蓄推進運動を後押しすることになる。しかし、近年は低金利が続いており、預貯金ではほとんど資産を成長させることができない。雇用形態も多様化し、就職して定年まで勤め上げれば退職金で老後を過ごせるという時代ではなくなった。必要なときに必要なお金を用意できないことで、人生の選択肢が狭められてしまうことから、資産形成について主体的に考えさせ、資産運用に関する知識を身に付けさせる必要性から、学習指導要領においても小学生からその学びが段階的に位置づけられた。本校で実践的な「金融経済教育」を体験した生徒たちがどのように意識が変化し、それがキャリア設計にどう影響するのかを検証できればと考えている。

○トコトン!ボーイ、トコトン!ガール みつけた。（挑戦することを決めた生徒を紹介します）

3年 K.Tくん(0.2秒の壁への挑戦!!)



K君は、現在陸上部に所属する3年生です。挑戦したいと思うことは、100m 走で11秒4の壁を破ることです。今年の高校総体では、残念ながら11秒6の記録で終わりましたが、7月の宮崎県選手権大会が最後の大会となるので、なんとしてでも11秒4の壁を破りたいそうです。いつも、部活動の練習後も自宅周辺でフォームの確認をしながら走り込みをしています。次の大会ではどうでしょう?と尋ねると「行けます。」と自信に溢れていました。「どうしよう、どうしようと思って準備するとだんだん自信がなくなるが、自分はできると言い聞かせると、自然と体が動くような気がします。」陸上部主将でもあるK君は、ミーティングで新チームの目標を「**応援されるチームになろう**」とみんなで決めたそうです。そのために、挨拶や部活動の準備など当たり前のことをそれぞれが率先して行うようにしています。顧問の先生は、「0.2秒は、1～2mの差、高校総体後も彼が一番チームの中で練習し努力している。」と話していました。自分が成長したと思えることは、**目標と今の自分との差を冷静に分析し、その差を縮めるために日々何をすればいいのかプランニングできるようになったことです。**7月の県選手権以降は、進路実現のために全力投球したいと、将来は大学へ進学し、人を助ける仕事がしたいと熱く語ってくれました。

とてもまっすぐなKくんの挑戦はこれからも続きます。「やると決めたら トコトン!」